

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	(株)共寿		
事業所名	グループホーム千本松(福寿苑) やすらぎ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成26年10月30日	評価結果市町村受理日	平成27年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200026-00&Pr_cfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人となつた会の会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成26年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様が一人ひとり個性あふれるユニットです。元気づけて たまに喧嘩にもなりますが 時間が経つと また おしゃべりがはじまります。その様子を職員が 見守り よい 関係であるとおもいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念及び事業所が定める「職員の心得」にそった介護ができるよう年間目標を設定し、「自己評価表」を使って、日々及び通年の介護を振り返っている。利用者・家族の満足度アンケートを毎年実施し、分析して運営に反映させている。介護計画を、独自のADL評価表やセンター方式の焦点情報で収集した情報を使って、利用者・家族の要望に応えられるように全体会議で検討して作成し、毎月及び半年毎にモニタリングしている。「介護何でも相談所」をスーパーや近隣の温泉で開設し、認知症介護の専門家としての知識をいかして助言をし、地域に還元する役割をはたしている。毎日の散歩など日常生活の中で機能訓練をした結果、下肢筋力の向上がみられ排泄の自立につながっている。職員は毎月居間のインテリアを変え季節を感じてもらおう工夫をしている。この事業所には、利用者の為にできることはないかと職員が自分達で考え、自発的に行動できる雰囲気がありケアの向上に役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、職員の心得を制定している。月に一度の職員会議では理念、心得の唱和するとともに勉強会を開くなどして、理念の共有、および介護に対する意識の向上につとめている。	理念とそれを支える事業所の職員の心得を事務室に掲示して毎月の会議で唱和している。年末には職員毎に介護の実践を「振り返りチェック表」で確認しながら、理念に添った介護ができているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、利用者様の馴染みの場所に出かけ、昔からの顔見知りの方々との交流を持っている。また散歩の途中で喫茶店に寄ったり美容院の方は気分転換にと お迎えに来てくださる。	事業所は園児や住民の訪問を受け入れ、地域行事に参加し行事運営の役割も担っている。喫茶店や美容院の利用、散歩や買い物時には住民と会話して交流している。「介護何でも相談所」をスーパーや温泉施設で開いて、認知症などの相談にのっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大型商業施設や保養センターなどに出向き介護相談を実地している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では 行政をはじめ警察・消防・民生委員・老人会・自治会・ご家族の参加により活動報告や事故報告をさせて頂きご意見やご指導を頂きサービス向上に生かすとともに会議録をご家族に発送している。	運営推進会議は法人内の近隣の事業所と合同で2か月毎に実施する他、各事業所毎にも行っている。地域及び事業所の行事の運営や災害対策等が話し合われ、最近では会議での発言が増え、防災訓練の実施方法等にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただき 事業所の状況報告や 助言をいただけるようひと月に1回程度事業所より訪問させていただいている。	独居高齢者の受け入れや申請業務、成年後見制度の利用等について、市に出向いて相談している。担当者で情報交換し、相談や助言等を得る協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけないことは 事あるごとに勉強会で 職員一同理解している。利用者様の安全を見守りながら行動範囲を確認職員間で事故を最小限にするための話し合いができています。	管理者は、拘束をしないケアの年間計画を立てて、毎月の会議の中で話し合っている。職員は、利用者の行動を注意深く見守り、玄関の施錠をしないケアに取り組んでいる。また、ベッド下にマットを敷いて、柵による拘束を避けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止は 勉強会に必ず取り入れ 虐待が見逃される事のないよう 職員間で話し合いをしている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会の中に取り入れている また入所されている利用者が自立支援事業のサービスを利用されているため大変 勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は 入所前にご家族に十分な時間を用意していただき 説明している。疑問点等の確認もしている また他のご家族にもご理解いただけるよう 声掛けさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご意見をいただいたり利用者家族アンケートの実地。面会時は積極的に声かけに努め また契約時には苦情相談機関の説明もしている。	家族には、面会依頼や状況報告をし、何でも言える信頼関係作りをしている。面会時には話しやすい雰囲気を作って意見・要望を聞いている。家族アンケートの結果を受け、外出機会を多くして欲しい、職員は名札をつけて欲しい等の要望を実現し運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の全体会議で意見を聞く機会を設けている。また 一人一人と会話できるよう 個人面談を実施している。	管理者は、全体会議で職員からの意見・要望を聞いたり、職員の様子を見守って個別に声かけして思いを聞く機会を作ったりしている。職員の意見により、ベンチの購入等を実現させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働く職場をめざし一人ひとりの生活環境を理解 勤務体制を整え 介護職としてのキャリアアップできるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験や キャリアに応じて 研修の参加を促したり 月一回の全体会議を利用して事業所内で勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度各事業所の管理者が集まり 外部からの講師による研修や 介護支援専門員は二か月に一度の行政によるケアマネ会議の参加により同業者との交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談を重視し利用者のこれまでの生活を理解した上で また 本人様にも理解していただいて入所していただくよう 声掛けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までのご苦労を労うとともに入所にあたり 本人様とご家族が円滑な関わりができるよう援助していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様が入所にあたり不安や希望を訴えることのできる環境を整え 本人様とご家族様が納得されるような プランの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の一人ひとりのいままでの生活や経験を知ることでその時々々の知恵をいただきお互いに支えあう関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にはご家族に感謝していただくよう声掛けすると共に ご家族にはご利用者の大切さを訴えることで本人様をより良い環境で支援していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者をご家族に連絡を取りたい時など事務所に気軽に来いただけるようオープンにしてある。手紙など出すことができるよう住所や名前を書く練習をしている	手紙や年賀状作成の住所書きの為に、レクレーションとして書道の時間を設け、馴染みの友人・知人と文書の交流が継続出来るよう支援している。入所前に関りのあった施設や店を尋ね、馴染みの人との面会の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が共通の会話が弾むことができるように 職員が状況により 情報提供ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族には お手紙を出したり また 医療機関に入院された利用者には 病院に伺い 状況を確認するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより 日々の生活や性格を知る事 また 入所されてからの様子を観察しながら 出来る限り 今までの生活に近い環境を整え支援している。	風呂や夜勤時、散歩等で1対1になった時に、ゆっくりと利用者から思いを聞いている。話す事が困難な利用者は、表情や様子から汲み取っている。把握した情報は、個人記録や介護記録に残し、会議等で発表して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やアセスメントで本人様の生活歴を知るよう努めている。施設生活での声掛けや他の利用者との関わりを観察しながらその方らしい生活ができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活の関わりの中で 職員の状況観察により現状を共有し 利用者の支援に あたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様らしい生活をしていただくために利用者・ご家族・医療・介護職員で今の現状を常に共有できるようにして 介護計画に反映できるようにしている。	家族・本人の希望を基に、独自のADL評価表やセンター方式の焦点情報、担当職員・医師の意見を参考に会議で検討し、介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、半年毎にADL評価表の見直しをし必要があれば、計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の観察を記録に残し 変化がみられる時は 朝晩の申し送り時に 職員間で状況を共有 介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所の際の状況が皆さんそれぞれ違うため 本人様をはじめご家族の意向を確認しながら安心していただけるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様をはじめご家族・近隣・職員 また運営推進会議での地域資源の活用等のご意見や助言を頂き 参考にしながら利用者の日々の生活に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人様及びご家族の意向をお聴きし 柔軟に対応している。また 施設のかかりつけ医は 些細なことでも看護師が相談できる環境であり 緊急時には 他の医療機関にも対応して下さっている。	この事業所の提携医が、入居前からのかかりつけ医である利用者が多い。歯科の訪問診療結果や、家族と受診した眼科などの情報を、看護師がファイルにまとめ職員全員で周知し、緊急時等には各医療機関と連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に 利用者の状況を把握できるよう職員は見守り 変化の状況を看護師に伝えることができるよう環境の整備をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時 看護師及び管理者がほぼ毎日医療機関に出向いて 状況の把握に努め病院関係者との情報を密に取り またご家族からのご相談も受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の在り方を本人様及びご家族に確認 意向を伺うようにしている。また医療機関及び他施設との協力体制を整えている。	契約時に終末期対応が可能な事を伝えている。マニュアルを作成し、職員は看護師から研修を受けている。重度化や終末期、緊急時には看護師と24時間連絡が取れる体制がある。また、家族の希望があれば、宿泊や食事の提供が出来る用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はマニュアル化して 看護師への連絡 応急処置・救急車への対応など勉強会を実施 周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署に運営推進会議の参加を頂き 昼間・夜間想定避難訓練・消火訓練・非常召集訓練など行っている。	火災の夜間想定訓練を行い、重度者の搬送など問題点を話しあっている。しかし地域との連携は一部のみであり、河川に囲まれた地域性を考えての水害訓練などや、避難方法までの協力体制はできていない。	地域性を考えて特に可能性が大きい災害については、地域との連携や市町村の協力が大切に思われる。協力体制へ向けて一層の働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのような場面でも 本人様が納得できるよう また他の利用者にも 理解していただくように 職員は声掛けするようにしている。	利用者には、人生の先輩として性格や生活歴に敬意を払い、声かけや対応に配慮している。食事時多くの副菜があっても、忘れて1種類しか食べられない人に、隣へ来てそっと耳元で他の副菜もあることを伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の表情や変化にきずつく様に努め 思いや希望を言葉に出していただくようにコミュニケーションをとるよう 職員は心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の お天気や状況により違いがあるが 出来る限り 利用者の意向を聞いて スケジュールをきめている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の要望により美容院を予約 近隣にあるため 出かけられたり 衣類は出来る限りご自分で選んでいただく様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの下処理など 出来ることは依頼しています また食事時間が楽しいものにするため 職員と一緒に昼食を摂っています 何気ない会話をしながら 表情を見守っています。	包丁を使う、後始末を手伝う、料理のレシピを伝える等、利用者の力に応じた出番がある。冷蔵庫の中の食材を伝え、皆の意見を聞いて献立を立てている。職員は食材などを話題にして一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・晩の水分や食べものの摂取量の確認により 足りない時など 栄養補助食品やスポーツドリンクなどの提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方にはその都度口腔ケアの大切さを声掛けして実施していただいている。また介護が必要な方には 居室にて 職員によるケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハパン使用の方など 布パンツの快適さをお知らせして トイレに行かれるように声掛け 支援している。	毎日の散歩等により下肢筋力の向上がみられ、排泄動作が容易になり、布パンツに移行できた例がある。車いすの人も毎朝、職員2人でトイレ移乗し、朝の排泄習慣を活かしてトイレで排泄が出来る様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の観察および確認 利用者一人ひとりの状況を把握しながら 対応している。また食事野菜中心の献立にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜の入浴は 職員がいないため 出来ないが 日中はほとんど入浴できるよう準備している。また 日にちを決めて 入浴剤を入れて させていただき 温泉気分を味わっていただいている。	湯加減や一番風呂、洗髪時の特別なリンス等、個別の希望を叶えられるように、午前と午後に入浴を行っている。入浴を好まない人には、更衣時に入浴への声掛けをする等の工夫をしている。身体状況により特殊浴槽が利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間は決まっていないがそれぞれの利用者の状況で 自由に居室に戻って休まれたり リビングですごされたりと 就寝時間も決まっていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は看護師の指導の下 それぞれの利用者の薬の把握に努め 服薬後の状況観察し異常がある場合看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状況に合わせ 生活歴に合った家事をお手伝いしていただいている。得意なことは自ら率先してやって頂くようこえかけしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気や利用者の希望次第で散歩に出かけたり 喫茶店に寄ったりと状況にあわせている。遠出の場合は 事前に行先を決めて 協力者をつのったり 車の手配等をして準備をしている。	天気が良ければ、毎日散歩に行っている。弁当を持って近くの公園に出かけたり、家族やボランティアの協力で、車いすの人も付属施設の車に分乗して、神社へお参りに出かけていたりしている。職員は食材を切る為に鉋を持参して、回転ずしや牛丼店へ出かけている。	

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については 混乱を招くことの無いよう事務所で預かる方もあるが 利用者の中には 職員に買い物をお願いしてお金を渡したりと能力に合った支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が ご家族に連絡したい時など自ら事務所に立ち寄ることのできるようオープンにしてある。手紙など出すことができるよう住所など字を書く練習をレグにとりいれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の消臭は地域の方からいただく炭を玄関やリビングなど設置している。起床時には窓やカーテンを開けることで気分をかえていただく。	クリスマスツリーや葉牡丹の鉢植えが玄関やロビーに飾ってある。居間の飾りは毎月職員が変更し、季節が感じられる様に工夫している。換気に気を付け、加湿器で空気の乾燥を防いでいる。習字の展示や、各部屋の入り口には利用者が作った作品が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには ソファを設置 中庭には縁台 エントランスにはマッサージチェアや椅子をあちらこちらにおいて腰が下ろすことのできるよう設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとタンスは施設で用意してあるが後のものは入所の際にご家族が準備されている。また 習字教室で書いたものや壁掛けなど思い思いに飾られている。	自宅で使っていた椅子や、時計、テレビ、お気に入りの帽子などが置いてある。位牌を持ってきている人には、職員の協力で花や毎日の水をお供えしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が準備しなくても 朝夕 お経の本や歌の本など利用者が用意してお経が始まったり 歌が聞こえたりと自然に 日課となっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	(株)共寿		
事業所名	グループホーム千本松(福寿苑)なごみ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成26年10月30日	評価結果市町村受理日	平成27年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_1_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200026-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の利用者様との コミュニケーションの時間を多く持つよう努め 何でも会話して下さる雰囲気作りをして 安心した施設生活につなげている。ご家族にも 事あるごとに 連絡を取りあいながら 不安の解消につとめている。いつも笑顔のある施設作りを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月に一度の職員会議では理念、心得の唱和するとともに勉強会を開くなどして、理念の共有、および介護に対する意識の向上につとめている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、利用者様の馴染みの場所に出かけ、昔からの顔見知りの方々との交流を持っている。また散歩の途中で喫茶店によったり美容院の方は気分転換にと 御迎えにきてくださる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大型商業施設や保養センターなどに出向き介護相談等実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では 行政をはじめ警察・消防・民生委員・老人会・ご家族の参加により事故報告や活動報告をさせて頂く また ご意見やご指導をいただきサービス向上に生かすとともに 会議録をご家族に発送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただき 事業所の状況報告や 助言をいただくことができるよう ひと月に1回程度 事業所より訪問させていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけないことは 職員一同理解している。利用者様の安全を見守りながら行動範囲を確認 職員間で事故を最小限にするための話し合いができています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は 勉強会に必ず取り入れて 虐待が見過ごされる事のないよう 職員間で対応している。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1年間の勉強会で 権利擁護の勉強会を行い 職員間で 理解できるよう 身近なものにしている 入所の利用者様が自立支援事業のサービスを利用されているため大変身について居る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は 入所前にご家族に十分な時間を用意していただき説明している。疑問点等の確認もしている。また 他のご家族にも説明やご理解していただけるよう 声かけさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご意見をいただいたり 利用者家族アンケートの実施。面会時は積極的に声掛けに努め また 契約時には 苦情相談機関の説明もしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の全体会議で意見を聴く機会を設けている。また 一人ひとりと会話できるよう個人面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働ける職場をめざし 一人ひとりの生活環境を理解 勤務体制を整え 介護職としてのキャリアアップできるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験や キャリアに応じて 研修の参加を促したり 月1回の全体会議を利用して 事業所内で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度各事業所の管理者が集まり 外部からの講師による研修や介護支援専門員は 2か月に一度の行政によるケアマネ会議の参加により同業者との交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談を重視し利用者様の今までの生活を理解した上でまた 本人様にも理解していただいて入所していただくように声掛けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までのご苦労を労うとともに入所にあたり 本人様とご家族様が円滑な関わりができるよう援助していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様が入所にあたり不安や希望を訴えることのできる環境を整え 本人様やご家族様が納得されるような プランの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人一人のいままでの生活や経験を知ることでの時々々の知恵をいただきお互いに支えあう関係づくりをしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様にはご家族を感謝していただくように声掛けするとともに ご家族にはご利用者様の大切さを声掛けすることで本人様をより良い環境で支援していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様がご家族に連絡したい時など 事務所に気軽にきて頂くようオープンにしてある。手紙等だすことができるよう住所等字を書く練習をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が共通の会話が弾む事ができるように 職員は状況により 情報提供できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族には お手紙を出したりまた医療機関に入院された利用者様には 病院に伺い 様子の確認をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより 生活や性格を知ること。また入所されてからの様子を見ながら できる限り 今までの生活ができるよう 周辺環境を整え支援していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより情報を得ることで把握 施設生活での声掛けや他の利用者との関わりを観察しながらその方らしい生活ができるよう 支援して行く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活とのかかわりの中で状況観察により その方のできることを見つけ 遣り甲斐になるよう声掛けしていく		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様らしい生活をするために本人様・ご家族・医療・介護職員で今の現状を常に共有できるようにして 介護計画に反映できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の観察を記録に残し 変化がみられる時は 朝晩の申し送り時に 職員間で状況を共有 介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所の際の状況が皆さん違うため 本人様やご家族の意向を確認しながら 安心していただけるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様をはじめご家族・近隣・職員 また運営推進会議での地域資源の活用等のご意見や助言を頂き 参考にしながら利用者の日々の生活に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人様及びご家族の意向をお聴きし 柔軟に対応している また 施設のかかりつけ医は 些細なことでも看護師が相談できる環境であり 緊急時には 他の医療機関にも 対応して下さる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に 利用者の状況把握ができるよう 職員は見守り 変化の状況を看護師に伝えることができるよう環境の整備をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時 看護師及び管理者がほぼ毎日医療機関に出向いて 状況の把握に努め病院関係者との情報を密に取り またご家族からの相談も受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側から終末期の在り方を入所時から本人様及びご家族に確認 意向を伺うようにしている また医療機関及び他施設との協力体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はマニュアル化して 看護師への連絡 ご家族への連絡 応急処置・救急車への対応など勉強会を実施 周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署に運営推進会議の参加を頂き ご意見やご指導をいただき 昼間と夜間 想定避難訓練・消火訓練・非常召集訓練等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのような場面でも 本人様が納得できるよう対応また 他の利用者様にも 理解していただくよう職員は声掛けしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の表情や変化に気づくように努め 思いや希望を言葉に出していただくようにコミュニケーションをとるように職員は心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の お天気や状況により違いがあるが できる限り 利用者の意向を聞いて スケジュールをきめている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の要望により 美容院を予約 近隣にあるため 出かけられたり 衣類は本人様たちが 選び できる限り 自由にされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの下処理など 出来ることは依頼する。食事時間が 楽しみになるよう 職員も一緒に昼食を摂り 何気ない会話の中で 思いをお聞きし好みを聞き出すようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・晩の摂取量の確認及び 水分が足りない時や 拒否がある場合 好みに合わせて 栄養補助食品やスポーツドリンク等提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には 口腔ケアの大切さを 声掛け確認する また 介助が必要な方は食後自室にて戻ってケアをしている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハパン使用の方など 布パンツの快適さをお知らせして トイレに行かれるよう声掛け見守りをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の観察および確認 利用者一人ひとりの状況を把握しながら 対応しているまた 食事野菜中心の献立にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜の入浴は職員がいないため 出来ないが 日中はほとんど入浴できるよう準備している また 入浴剤を入れて 温泉気分を味わってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡などの時間は決めていないがそれぞれの利用者の状況で 自由に居室で休まれたり リビングで過ごされたりと 就寝時間も決まっていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は 看護師の指導の下 それぞれの利用者の薬を把握するとともに 服薬後の状況観察し看護師や他の職員との連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴等に合った家事を手伝って 頂いたり 得意なことを把握 率先して やって頂くような声掛けをしている また 感謝の言葉も 伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気や利用者の希望次第で 散歩に出かけたり 喫茶店に寄ったりと 状況にあわせている。遠出の場合は 事前に行先を決め 協力者を募ったり 車の予定をたてて 準備をしている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については 混乱を招く事のないよう事務所で預かっている方もあるが 利用者の中には 職員に買い物頼んだりお金を渡されたら 能力に合った支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が ご家族に連絡したい時など自ら事務所に立ち寄ることの出来るよう オープンにしてある。手紙など出すことができるよう 住所などの字をかく練習もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の消臭は地域の方にいただいた炭を玄関やリビング等設置している。起床時には窓やカーテンを開けることで気分を変えていただく。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには ソファを設置 中庭には縁台 エントランスにはマッサージチェアや椅子などあちらこちらにおいて腰を下ろすことのできるように設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスは施設で用意してあるがあとのものは入所の際 ご本人様やご家族が準備されている。また 施設内で行った習字や壁掛けなど思いおもいに飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすの方でも 自立の方でも 自由に 隣のユニットに出かけて お話したり ゲームに参加したりと 環境の整備を心がけている。		